

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業  
（免疫アレルギー疾患等政策研究事業（移植医療基盤整備研究分野）））  
分担研究報告書

重症小児救急事例の発生頻度と初期診療における家族の意思確認に関する研究

研究分担者 西山 和孝 北九州市立八幡病院 小児科 部長  
研究担当者 市川 光太郎 北九州市立八幡病院 前院長

研究要旨:小児脳死下臓器提供に至る重症小児事例が搬送される施設での体制整備は行われてきているが、患児の代弁者である保護者の考えや医療従事者の臓器提供に対する考えは臓器提供に至る前段階として重要な要素となりえるため、既存の調査結果を基に現状把握を行った。保護者に対する調査では脳死・脳死下臓器提供に否定的な意見だけでなく、前向きに検討する意見も同程度以上認めた。医療従事者に対して行った被虐待児に関する調査では寛容な意見も認められ、男性・若い世代で寛容な意見が有意に多かった。脳死・脳死下臓器提供を前向きに捕える家族は決して少なくはなく、年齢が若い医療従事者にもその傾向が認められていた。今後、脳死について正確な知識や情報提供を行い、平時より関心事項になるような教育体制などの環境整備および被虐待児に対する対応が必要である。

A. 研究目的

脳死・脳死下臓器提供に対する認識について、一般外来通院家族、小児救急医療従事者について調査検討した結果を基に今後提供者数を増加させるための体制整備に必要な問題点を抽出する。

B. 研究方法

小児の脳死および脳死下臓器提供に関する既存のアンケート調査 1), 2)を基にした解析。

C. 研究結果

一般外来通院家族1,445名の属性は、母親87.5%、父親8.9%。受診したこどもの93%は健康で1-4歳が44.7%、1歳未満が21.3%。脳死をヒトの死と「思える」42.8%、「思えない」47.7%。脳死下臓器提供に「賛成」22.9%、「どちらとも言えない」73%、「反対」2.9%。わが子が脳死となった場合「受容できない」31.1%、「できるかも」62.3%、「できる」4.4%。医療者からの意思確認について「聞かれたくない」7.3%、「聞いてみる」67.6%。臓器提供について「考えられない」16.1%、「説明によって考える」60.8%。脳死・脳死下臓器提供、わが子に起こった場合の受容については父親の方が寛容であり父母で有意差を認めた。

小児救急医療従事者441人の属性は、医師91.5%、看護師7.8%。男性77.4%、女性22.4%。20年未満が45.7%、20年以上が54.3%。現行の制度下では認められていない被虐待児からの臓器提供に関して、「行ってはいけない」51.3%、「行ってもよい」23.1%「どちらとも言えない」24.3%。過去の虐待歴があるが現在健全養育をうけている場合に臓器提供を「行ってもよい」59.9%、「いけない」12.9%。虐待疑い例での「臓器提供可」21.2%、「不可」52.3%、予防できる傷害による脳死での提供「可」49.6%、「不可」19.

5%。男性・若い世代で寛容な意見が有意に多かった。

D. 考察

家族に関して、脳死や臓器提供に関する意識調査を行ったところ、臓器提供の説明や提供についても説明を聞いたり、検討してみたいという前向きな意見は半数を上回っており、我々医療従事者のより真摯な対応と説明により提供を検討して頂ける環境にあると思われる。また、脳死に対する正確な知識の不足や普段より関心がないことで考える環境を持つことなく急に発症した状態に対して決断を行うことが出来ないことも考えられる。

小児救急医療従事者に対しては、現行制度下の問題点として考えられる虐待への対応を調査しているが、過去の虐待歴がある場合の対応、虐待の疑いや予防できる傷害の判断などについて全く否定的な意見だけではなかった。

家族の年齢層や寛容な考えを持つ小児救急医療従事者の年齢層は20-40代であり、今後より若い世代へ平時からの情報提供や教育を行っていくことで脳死や脳死下臓器提供により関心が高まり、オプション提示を行いやすい社会環境や被虐待児への対応などを社会で再度議論する土壌が生まれると思われる。

E. 結論

小児の脳死・脳死下臓器提供に関して、現在乳幼児の保護者である世代は全否定ではなく前向きに捕えてくれる可能性があり、医療従事者においても同様の傾向が認められる。正確な知識や情報提供を行う体制整備構築が望ましい。

参考文献

- 1).市川光太郎:保護者の脳死・脳死下臓器移植に対する意識に関する調査.日小児救急医学会誌.2018;17:41-50.
- 2).市川光太郎,荒木尚,西山和孝ら:日本小児救急医学会脳死問題検討委員会 一般社団法人日本小児救急医学会会員の脳死・脳死下臓器提供における虐待児の諸問題に関する意識調査.日小児救急医学会誌.2018;17:543-559.
- 3).里見昭ら:日本小児救急医学会脳死問題検討委員会 脳死および臓器移植に関する意識調査.日小児救急医学会誌.2008;7:358-366
- 4).荒木尚,市川光太郎,西山和孝ら:日本小児救急医学会脳死問題検討委員会 小児医療従事者の脳死および臓器移植に関する意識調査(第二回).日小児救急医学会誌.2017;7:111-115

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

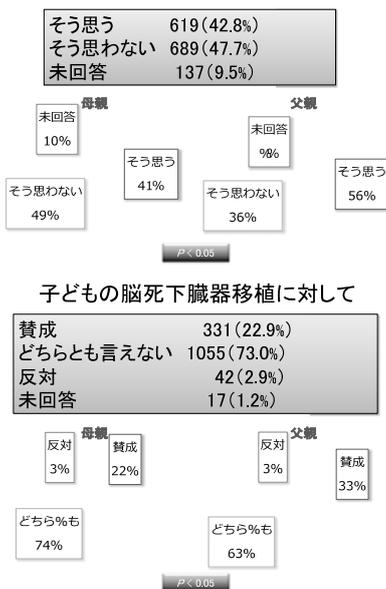
G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし  
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

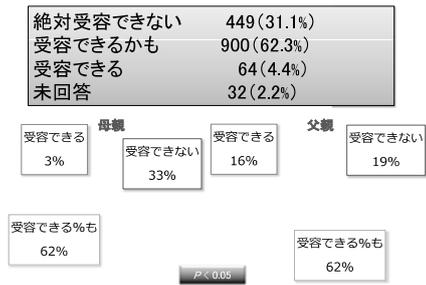
H. 知的財産権の出願・登録状況  
(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

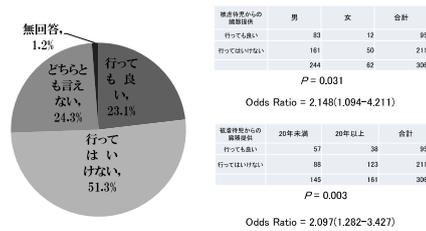
「脳死はヒトの死」について、どう考えるか？



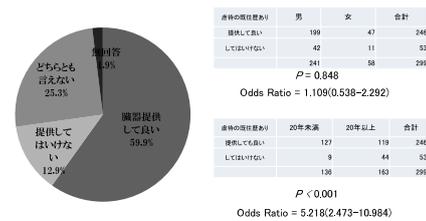
わが子の「脳死とされる状態」の受容は？



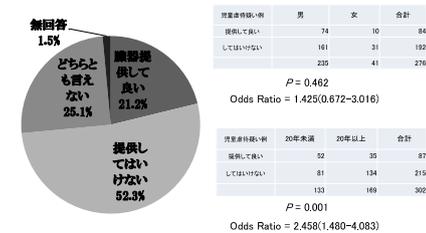
被虐待児から臓器提供の是非



虐待歴(+)でも現在健全養育を受けている場合の臓器提供の是非



結虐待疑い例の臓器提供の是非



予防できる傷害で脳死となった事例の臓器提供の是非

